

静かな病気(Silent disease)、「歯周病」

茨城県歯科医師会
北見 英理

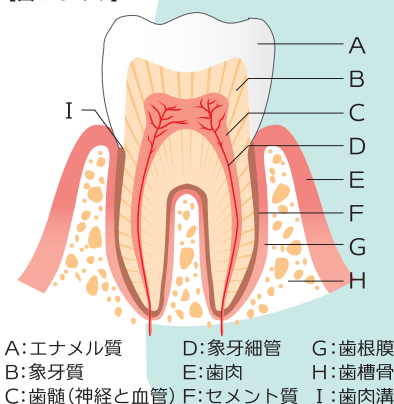
免

疫力を低下・突然死を招く感染症・世界で最も患者数が多いとも言われる感染症・日本でも7割の人がこの感染症にかかっています。「これは、今年の6月22日にNHK・ためしてガッテンで放映された冒頭部分です。今回は、その感染症「歯周病」について、解説します。

歯肉炎と歯周炎

歯周病には、歯ぐき(歯肉)のみに炎症がみられ比較的初期の歯肉炎と、より進行し歯の周りの組織(歯肉・歯根膜・歯槽骨・セメント質)が破壊される歯周炎があります。

【歯のしくみ】



原因は？

歯周病の主な原因であるプラーク(歯垢)は実は細菌のかたまりで、現在10数種類の歯周病原菌がわかっています。つまり、歯周病は細菌感染症なのです。また、歯周病を発生・進行させる危険因子として、

- 1 生体局所因子 噛み合せの不具合・歯石・歯並び・口呼吸など
- 2 生体全身因子 年齢・人種・遺伝・免疫・ホ

ルモン・糖尿病・骨粗鬆症など

3 環境因子 プラッシングの不足、喫煙・ストレス・薬の服用・栄養不良・不規則な生活などがあげられ、こうした危険因子が多く関与すればするほど、歯周病は進行します。

生活習慣病のついで

また、歯周病は糖尿病・高血圧症・心臓病といった生活習慣病のひとつで、初期段階ではあまり自覚症状がなく、痛みもなく進行し、

静かな病気(Silent disease)と呼ばれます。特に慢性歯周炎の場合、非常に時間のかかる病気で重症になってから気付くことがほとんどで、手遅れになり歯を失うことも少なくありません。さらに、重症化すると単なるお口の問題だけではなく、認知症・肺炎・心臓病(心筋梗塞・心内膜炎)・糖尿病・低体重児出産・骨粗鬆症・癌・肥満など全身に悪影響を及ぼすこともあります。

予防するには？

- 1 セルフケア プラークコントロール(細菌の数を減らすこと)で基本はブラッシング
- 2 プロフェッショナルケア 歯科医院で行う歯垢・歯石の除去、歯面清掃、正しいブラッシング指導などの治療
- 3 生活習慣の改善 規則正しい生活・禁煙・ストレス解消・バランスのよい食事など

これらのどれが欠けてもお口の健康を保つことは難しくなります。そして日本人の7割がかかっている歯周病、5〜14歳で45.05%、15〜24歳で71.15%(平成17年度歯科疾患実態調査)と決して中高年の病気ではなく、若い頃から予防のために定期的に歯科医院に通うことで歯周病の発症進行を防ぎ、歯の喪失ばかりではなく健康寿命を延ばすことにもつながります。